

Aグループ

浅蔵一華（第一小）	行松明美（稚松小）
出倉史恵（犬丸小）	鈴木桂子（串 小）
西尾通江（日末小）	田川陽子（中海小）
竹内智恵（西尾小）	吉田晶子（東陵小）

『親子でチャレンジ』

平成22年度 小松市立学校PTA連合会

母親委員会 Aグループ研修報告書



テーマ設定

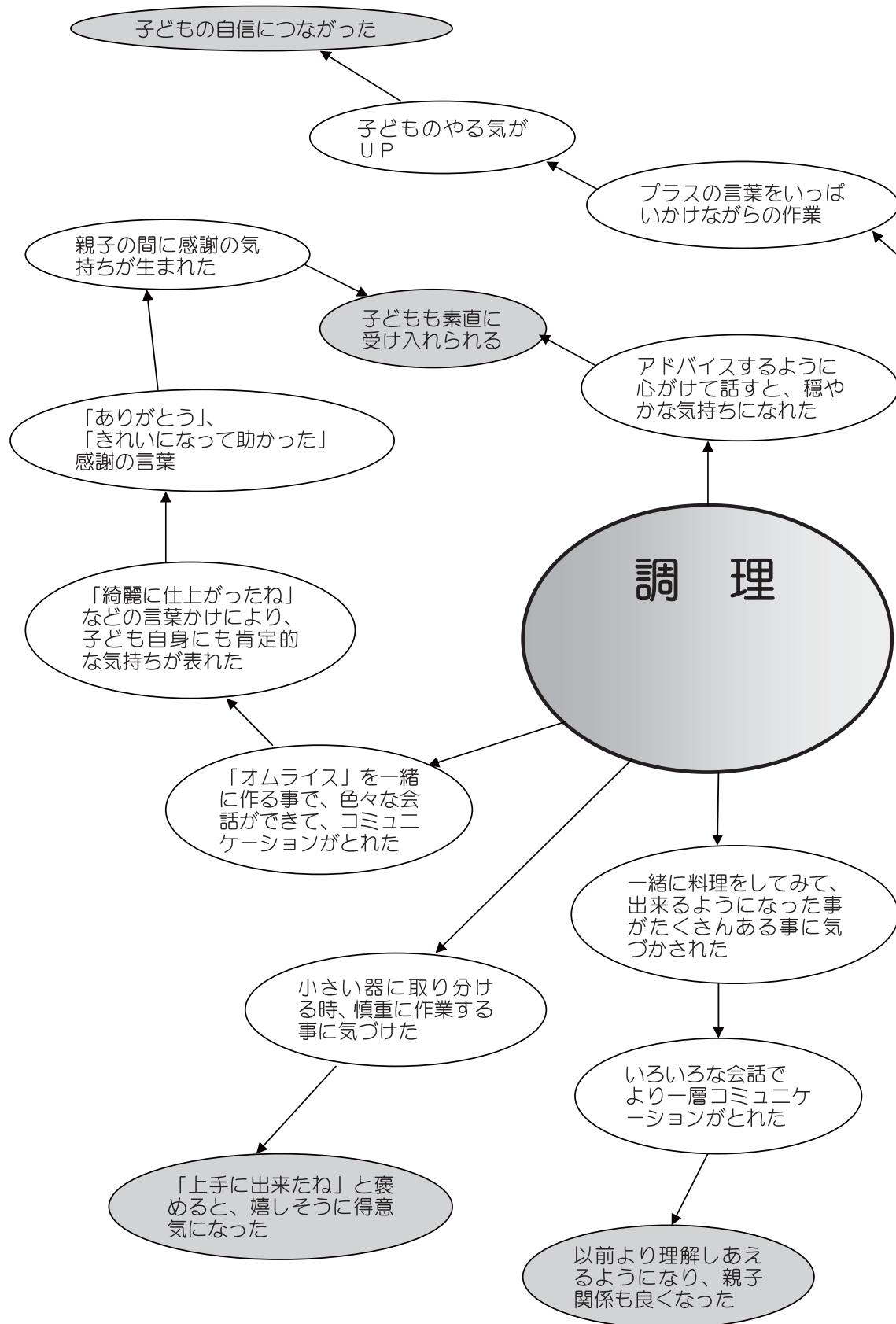
虐待のニュースが多い今日この頃、親にとっても子どもにとっても、いろいろと問題の多い世の中です。子育てに不安のある親も多いのではないのでしょうか？私たちAグループは、6月25日の藤原清道さんの講演を聞いて、子どもをより一層理解することを意識しながら私たち自身が努力していこうと決めました。

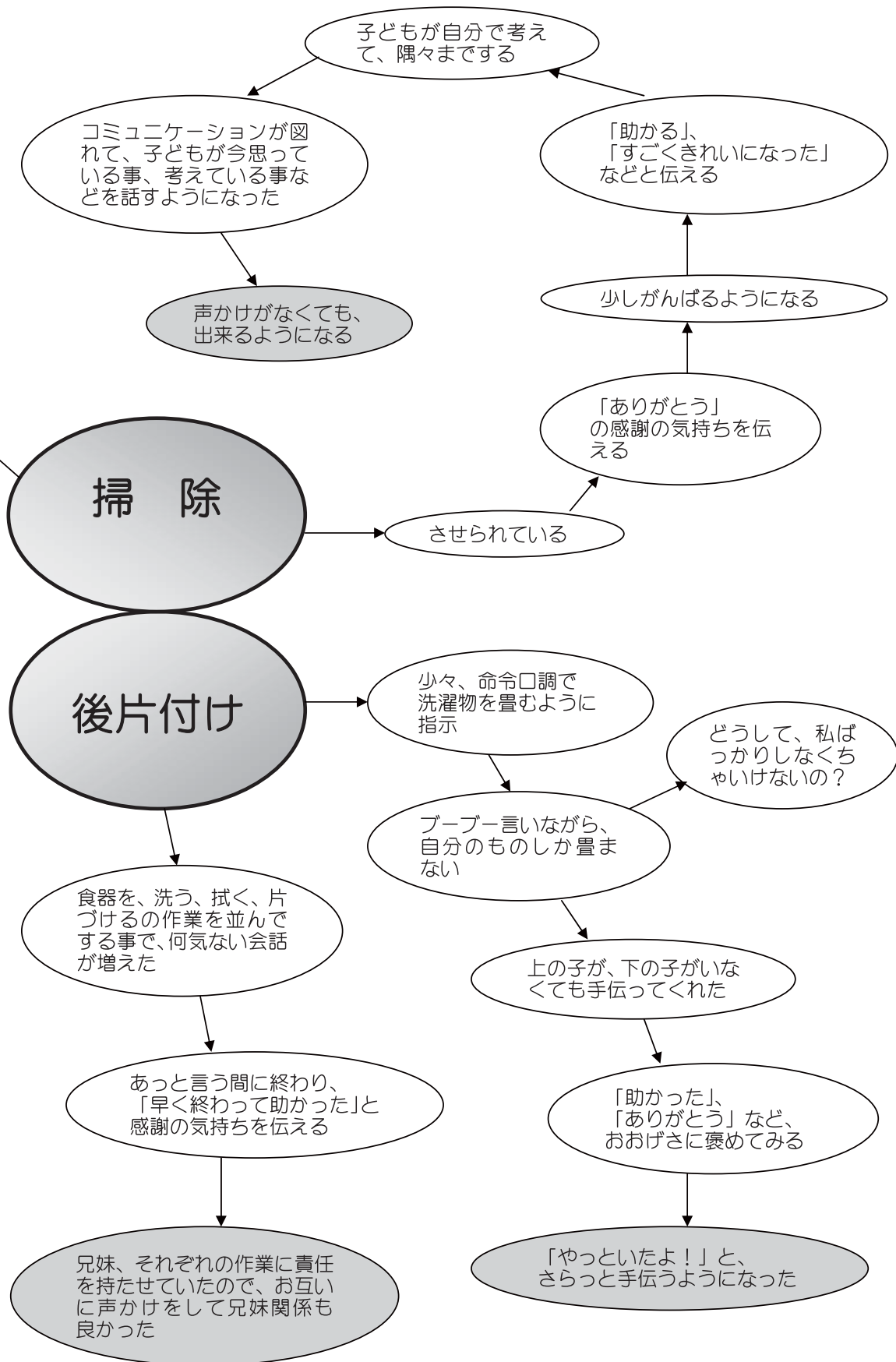
そこで、身近なお手伝い(調理、掃除など)を通して、親子間のコミュニケーションを図ることからはじめました。その一連の中で、子どもへの声のかけ方、見方を変えて接することで、子どもの反応や親自身の心境がどのように変化していくかを各家庭で取り組み、結果を話し合うことにしました。

『親子でチャレンジ』に取り組むにあたって、

以下の事に親が気をつけました

- ◎ 心に余裕をもって取り組む(イライラしない)
- ◎ アドバイスはするが、自分の考え(大人の言い分)を押し付けない
- ◎ 子どもの言い分をきちんと最後まで聞く
- ◎ 子どもの短所ではなく、長所を見るようにする
- ◎ 子どもの良いところを見つけたら、すぐに褒める
- ◎ 親自身も子どもに素直に『ありがとう』などの声をかける





グループ研修を終えての感想

- ・一緒に作業する事で、何気ない会話が増え、また家事が早く終わった分、家族団らんの時間が出来た。次のお手伝いも、喜んでしてくれた。
- ・一緒に作業した事で、子どもの成長した部分や、今まで気づかなかった一面を見る事ができた。
- ・子どもとの共同作業を通して、親自身も意識改革ができ成長したように思う。
- ・「ありがとう」だけでなく「助かる」「きれいになった」など、具体的な感謝の気持ちを伝える事で、子どものやる気がUPした。
- ・自分の存在を認めてもらえたと思う事で、子どもも素直な気持ちを話してくれるようになった。
- ・一緒に作業する事で、コミュニケーションが深まり、自分から今思っている事を話してくれるようになって良い関係になった。
- ・プラスの言葉をいっぱいかけた事で、子ども自身にもプラスの気持ち（思いやり、感謝）が育ってきた。

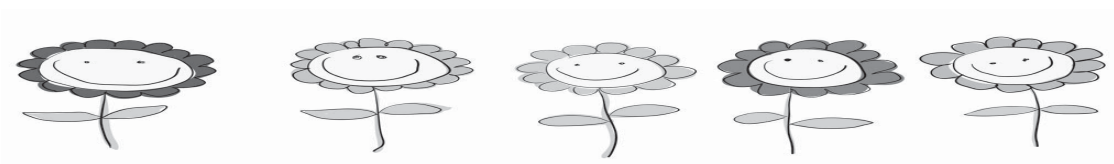
まとめ

子どもをより一層理解するための親側のアプローチとしては、身近なところから、こまめにコミュニケーションを図る事が大切だと気付きました。

そして親の方が意識しながら肯定的な言葉をかけるようにする事で、子どもに自信がつき、お互いに心が安定し、信頼関係を築けていける事がわかりました。

また、子どもが今どんな気持ちで何を伝えたいかなど、素直に子どもの言い分に耳を傾けられるように変化してきている自分たちにも気づけました。

この取り組みをこれからも続けていき、より良い親子関係を築いていきたいと思います。
素晴らしい学びの機会をありがとうございました。



Aグループ メンバー紹介

浅蔵 一華（第一小）

西尾 通江（日末小）

行松 明美（稚松小）

田川 陽子（中海小）

出倉 史恵（犬丸小）

竹内 智恵（西尾小）

鈴木 桂子（串小）

吉田 晶子（東稜小）